

令和4年 経済委員会 開催状況（経済部労働政策局雇用労政課）

開催年月日 令和4年12月14日

質問者 民主・道民連合 広田 まゆみ 委員

答弁者 経済部長、雇用労政課長兼働き方改革推進室長

質 問 要 旨	答 弁 要 旨
<p><b>一 イクボス宣言などについて</b>  <b>（一）育児休業取得促進プロジェクトにおける取組状況について</b>                      （広田委員）                      道では、民間企業などとも連携し、男性の育児休業に関する周知・啓発を行い、社会全体の育児休業に関する機運を醸成するという一方で、制度を利用しやすい環境構築を図るため、庁内横断的プロジェクトを発足させ、希望する団体・企業などに、無料での講師派遣を行うなどの取組を展開するものと承知をしています。                      この庁内横断プロジェクトの構成や、実施状況や、進捗状況、実績と今後の課題などについて、伺います。</p>	<p>（雇用労政課長兼働き方改革推進室長）                      育児休業取得促進プロジェクトについてであります。道では、道内の男性の育児休業取得率が全国平均より低い水準にありますことから、令和2年10月に関係部局からなるプロジェクトチームを発足し、男性の育休取得に係るシンポジウムやフォーラムの開催、ハンドブックの作成・配付や、育休の取得状況等を評価する企業認定制度の普及など、民間企業等と連携のもと、育児休業取得の機運醸成に取り組んできたところであります。                      また、本年度におきましては、育児・介護休業法の改正により、いわゆる「産後パパ育休」が設けられましたことから、その周知を図るため、父親の子育てを支援する団体や国などと連携し、道内で初となる全国フォーラムを開催いたしましたほか、地域で行う研修会への講師派遣などを行っているところであります。                      本道の男性の育休取得率は、年々上昇しているものの、依然として全国平均を下回っていることから、さらなる育児休業取得の機運醸成を図るため、国や関係機関と連携し、引き続き周知・啓発に努めてまいります。</p>
<p><b>再一（一）育児休業取得促進プロジェクト及び講師派遣の実績などについて</b>                      （広田委員）                      今の答弁でいきますと、関係部局からなるプロジェクトチームを発足されたということですが、このメンバーが具体的にどのような構成になっているのか、世代間のバランスなども含めて考慮されているのか、伺いたいと思います。                      また、併せてですね、今御答弁いただいた部分のところで、地域で行う研修会への講師派遣というのが、このプロジェクトにおける重要な取組になると思いますが、その実績について、課題認識も含めて伺いたいと思います。</p>	<p>（雇用労政課長兼働き方改革推進室長）                      先ず、プロジェクトチームの構成についてですが、当課のほか、総務部人事課、環境生活部女性支援室、保健福祉部子ども子育て支援課、さらには産業人材課の職員で構成しておりまして、世代につきましては、若手職員から管理職員まで、幅広い構成となっております。                      また、研修会などへの講師派遣についてですが、道では、男性の育休取得を促進するため、育休取得に関心のある労働者の方々や企業の労務担当者向けに社会保険労務士などの専門家を無料で派遣しておりまして、現在のところ、予定も含めて計9件となっております。                      育休取得の促進に向けましては、労使双方の意識改革が重要でありますことから、事業者への周知啓発、講師派遣の活用促進に取り組むとともに、育休の取得状況等を評価する企業認定制度の普及など、民間企業等とも連携をいたしまして、育休の機運醸成に取り組んでまいります。</p>

質 問 要 旨	答 弁 要 旨
<p><b>【指摘】</b>  (広田委員)  ちょっとその実施状況について、予定も含めて9件というのは、これからだということもあると思うんですが、少し低調ではないかと思ひまして、ちょっとこれは後でもまた、質問させていただきたいと思ひますが、この構成に関して指摘させていただきたいと思ひますが、若い世代が参画されていることは非常に評価したいと思ひます。</p> <p>実は私自身も11月25日、その開催されたファザリング全国フォーラムin北海道に会場参加させていただきました。きっかけはですね、実は、若手道庁職員のSNSでの発信から私、一般参加として会場に参加させていただいた訳ですけども、その職員の方がそのプロジェクトの構成メンバーかどうかというのは分からないですけども、組織として充て職で参加する仕組みだけではなく、育児や家庭の男女共同参画に感性の高い若い職員が、有志でも参画できて、そしてやっぱりそれを自ら外向きに発信することも、組織として応援する様な仕組みも併せてご検討いただきたいと指摘をしておきます。</p> <p>で、プロジェクトのこの構成にも私としては課題があるのではないかと考えておりまして、これまた後でちょっと重ねてと言うことになりますけど、ここでちょっと指摘をするとすると、結局、経済部の中で労働政策局っていうんですかね、そこだけしか関与しなくて、経済企画局とか地域経済局も本来は参画すべきテーマであると指摘をしたいというふうに思ひます。</p> <p><b>(二) イクボス宣言に至る経過と今後の取組について</b>  (広田委員)</p> <p>そうした視点からもですね、今回、道がされましたイクボス宣言に至る経過と今後の取組について、伺っていききたいというふうに思ひますけれども、先ほども少しお話ししましたが、11月25日、26日に「ファザリング全国フォーラムin北海道」というのが開催をされまして、8つの経済団体の方々との連名で北海道イクボス共同宣言がなされたことと承知をしています。</p> <p>今回のイクボス宣言に至る経過や意義について伺ひます。</p> <p>また、北海道において、その8つの経済団体とともに知事が共同宣言をされたことについては先ず評価をするものです。なぜならZ世代やミレニウム世代共に8割以上が、アンケート調査によると育児休業取得を希望しているという、データがありまして、そういう企業文化、組織文化が北海道に根付かなければ優秀な人材や若手人材が獲得できないともいえます。</p> <p>今後、経済団体と連携し、先ほどのセミナーの実施状況などの現在の実施状況を踏まえて、男性の育児休業取得促進に向け、具体的にどのように取り組んでいくのか、併せて伺ひたいと思ひます。</p>	<p>(雇用労政課長兼働き方改革推進室長)</p> <p>イクボス宣言の経過などについてでございますが、平成28年11月に、全国知事会におきまして都道府県知事による「イクボス宣言」を行ったところでありますが、道では、今般の改正育児休業法の施行を踏まえまして、育児休業取得の機運醸成を、官民一体となって図っていくため、経済8団体と連携をし、共同宣言を行うこととしたものでございます。</p> <p>道としては、共同宣言を行った経済8団体はもとより、国や市町村とも連携をし、各地域で開催するセミナーや研修会などを通じて男女を問わず、育児や介護を行いながら安心して働ける雇用環境の実現に向けて、取組を進めてまいります。</p>

質 問 要 旨	答 弁 要 旨
<p><b>【指摘】</b>  (広田委員)  少し、具体的な取組が弱いというふう思うんですね。先ほどの実施状況では、予定も含めて9件の開催というところでありまして、その中には振興局主催のものも含まれているということで、そこはその振興局の努力も評価をしたいと思っておりますけれども、このまま待ちの姿勢では手を挙げたところにただ派遣するよということではですね、このプロジェクトの設立の趣旨であった、男性の育児休業の取得率を上げていこうという目的をそもそも達成することが出来ないのではないかと思います。</p> <p>で、私も会場ですと、拝見してたわけですけど、経済8団体と知事が行ったイクボス宣言ということでございます。NPOファザーリングジャパンの代表と知事が記念撮影されただけで、何ていうかな、男性の育児休業に理解がありそうな知事として、知事の宣伝にはなったかもしれませんが、ビフォアイクボス宣言、アフターイクボス宣言によって、どんな具体的な変化を起こそうとしているのかが、全く今の段階では、不明であります。</p> <p>本来は、知事自らが各経済団体の代表にしっかりイクボス宣言の趣旨を伝え、今後の具体的な取組を要請、また協議していくということが、本来の知事の役割だと考えますが、少なくとも経済企画局、地域経済局、さらには、産業振興局なども参画した上で、具体的に何をするのか、経済8団体としっかり進めること、さらに経済8団体も同席しての改正育児休業法の施行を踏まえた気運醸成や男性の育児休業取得推進をする、その社会的・経済的意義をしっかり発信する場を再度設定するよう、指摘をしておきたいと思っております。</p> <p><b>(三) ファザーリング全国フォーラムの実施状況について</b>  (広田委員)  どうして私がここまで力説するかというところで、その全国ファザーリングフォーラムの中身がとても良かったんですよ。そういった観点からですね、全国ファザーリングフォーラムの実施状況とそれを受けての今後の取組について伺っていきたくと思っておりますが、先ず基調講演のサイボウズ青野社長のお話は、すばらしい講演でありました。育児休業取得はいわゆる雇用労働問題という位置付けではなく、持続可能な、本当に地域の企業が経営を持続していくための人材確保や組織マネジメントのためのお話でありまして、今の組織や個人の意識変革の話ではなくて、今の組織や社会の当たり前や常識を問い直していくことが、重要であるというお話でした。</p> <p>いくつかキーワード的にご紹介しますが、男性の育児休業をどうこうするというよりも、本来は、100人いたら100通りの働き方がある。本当は、女性の社会参画よりも、男性の社会参画が必要ではないか。男性は、会社、組織に参画しているだけ</p>	<p>(雇用労政課長兼働き方改革推進室長)</p> <p>ファザーリング全国フォーラムについてであります。道では、国や経済団体と連携し、フォーラム開催について周知を行いましたほか、市町村への開催通知やSNSを活用した周知などに取り組んだところでございます。</p> <p>今回のフォーラムは、11月25日、26日の2日間で開催し、初日の開会式では、イクボス宣言や基調講演、パネルディスカッションを行うとともに、3つの分科会を開催したほか、2日目は基調講演と13の分科会を開催し、延べ、会場374名、オンライン178名の合計552名の参加を得たところであります。</p> <p>開催に際し、来場者からアンケートをいただいております。その結果については集計中でございますが、働く方々や事業主の方々など多くの方に参加いただけたものと考えております。</p>

質 問 要 旨	答 弁 要 旨
<p>で、社会に参画していない。つまり、女性の社会進出よりも男性の家庭や社会への進出が必要である。で、ここがすごく大事ななというふうに思っていたのですが、社会の困りごとを解決するのがそもそもビジネスである。社会に参画していない男性に、病院に子どもを一緒に連れて行ったり、買い物に行ったり、そういうことがあまりしていない男性に商売が構築できるのか。商売人たるもの育児すべきである。厳しい言い方をすれば、育児休業取得など育児に参画していないその役員がリーダーをしている組織に商売で負ける気がしない。そんなお話をされていました。</p> <p>是非、知事にも、そして道内の中小企業の経営者のみなさまにも聞いていただきたいお話でした。</p> <p>一方で、会場の参加者を見ると、若い男性の参加者や女性の参加者が目立ちました。それは道主催の例えば交通政策のフォーラムとかに行くと、ほとんど9割背広族の人ばかりで、本当に公共交通を使っている例えば高齢者の方だとか高校生とかは全然いないわけですが、それはそれで若い男性の参加者、女性の参加者が目立ったのは、それはそれで素晴らしいことではあります、本来は企業経営者ですとか自治体関係者ですとか、そうした方々にこそ聞いてほしかったというのが、とても残念でありました。</p> <p>まず、この集客に関し、そのイクボス宣言というね、経済8団体と連携する場であったのに、集客に関し、ファザーリングフォーラムというそのNPOだけにまかせにするのではなく、各経済団体としっかり連携をすべきだったと考えますが、実際の参加者の状況をどのように受け止めているのか伺いたいと思います。</p> <p><b>【指摘】</b>  (広田委員)</p> <p>明らかに経済団体というか、通常道庁が主催して呼ぶ人達を呼んでないってことなんですよね。逆にこの育児休業推進というこういうテーマに関しては、むしろしっかりそうした人達に聞いていただくということが重要です、ちょっと話それちゃうんですけど、違うところには逆に NPO から主催して、今回来てくれた人を呼び込んでいくということも必要だと思いますけども、先ずはこの、しっかりその経済団体に何をさせていただくかということを道庁と意識合わせ、しっかりしていく必要があるというふうに思います。</p>	

質 問 要 旨	答 弁 要 旨
<p><b>(四) 今後の取組について</b> (広田委員)</p> <p>知事は、記念の写真撮影だけしてお帰りでしたけども、経済部長はパネルディスカッションへの御登壇もされましたので、この貴重な講演を最後まで聞かれていたと思っております。この持続可能な地域経営を進めていくためにも、男性の家庭進出は必要です。子育てに参画する男性や若い世代を地域の企業や団体、大人といわれている世代が、真剣に応援すること、その姿を子どもや若い人にも見せていくということが、地域社会の将来の消費者であり、働き手をつくっていくことに繋がります。</p> <p>そして育児休業取得推進の課題は、繰り返しになりますけども、雇用問題としての側面ではなく、企業の組織マネジメントの話なのだとすることを部長もそういう感想をステージ上でお話をされていたように私は理解をしておりますが、そういう共通理解をですね、経済団体の方たちにも伝えていく必要があるというふうに思います。女性の活躍や男性の家庭や社会への参画を通して、それが別に目的ではなく、そういったことをきっかけとして、企業文化や組織文化を見直していく企業をつくるのが、北海道の活力に繋がると考えます。</p> <p>しかし今、残念ながら、北海道の小規模企業振興方策や産業振興施策、商工業振興施策などにおいて、そうした視点がほとんど見られないこと、それが弱さであること、時代の変化に対応していないのではないかとこの間、委員会の議論の中でも強く私としては指摘してきたところであります。今回のサイボウズさんの社長青野さんのお話、そうした新しい組織マネジメントのあり方も含めて育児休業取得が大事だという、そうした講演の趣旨を部長はどのように受け止められ、今後、経済部の諸般の施策にどのように活かされる考えか、見解を伺います。</p> <p><b>【指摘】</b> (広田委員)</p> <p>最後に指摘になりますけども、私の質問の作り方もあるかもしれませんが、ご答弁でも例えば、ワークライフバランスの考え方を広く道内に普及させるとか、男女が共に仕事と子育てを両立できる環境の整備に向けて取組を進めるというのは、結局、その労働政策局の枠内での御答弁であります。</p> <p>是非、経済企画局、地域経済局、そして産業振興局においても改正育児・介護休業法の気運醸成を契機とした組織マネジメントの必要性などを踏まえてですね、中小企業商工振興施策などについても私としては再検証していただきたい、そのプロジェクトの構成も含めてですね、再検討していただきたいということを指摘をさせていただきたいと思っております。</p> <p>で、その中小企業支援や商工振興、地域商業の活性</p>	<p>(経済部長)</p> <p>今後の取組などについてでございますが、先月開催のフォーラムに私自身も参加させていただきました。基調講演の中で青野社長から、「100人100通りの働き方」ですとか、「男性の家庭進出」といった、色々貴重なお話がありまして、道としてもですね、今後に向け参考になる話が沢山あったと考えておりますし、私自身もですね、感銘を受けたところでございます。</p> <p>本道では、全国より早いペースで人口減少が進んでいまして、労働力人口がさらに減少していく、人手不足の深刻化による生産活動への影響が懸念されますことから、道といたしましては、今後も引き続き、女性、高齢者、障がい者など、多様な方々の労働参加が得られるよう、ワークライフバランスの考え方を広く道内に普及させるなど、男女が共に仕事と子育てを両立できる環境の整備に向けて取組を進めてまいります。</p>

質 問 要 旨	答 弁 要 旨
<p>化においても、従来の経済政策の視点、視野、視座を      変えることが必要であり、それこそが私は本来の新しい      資本主義と名前を言うんだったら、新しい資本主義      のあり方であり、持続可能な地域経営を全道の市町村      と連携しながら、展開していく。広域自治体の北海道      が指し示す経済政策の方向性なのではないかと私は、      考えます。</p> <p>で、今現在ですね、残念ながら講師派遣ですとか啓      発しかできないとするならば、少なくとも育児や男女      協同参画のセミナーが、個人の意識変革という視点の      みではなく、企業、団体の組織文化の改革の視点で、      経済8団体などが、それぞれに情報発信の主体となる      ような働きかけを道として明確に行うべきだと指摘を      させていただきたいと思います。そのためには、繰り      返しになりますけども、このイクボス宣言、せっかく、      皆さんこれ、道として初めてやられたわけなんですから、      このイクボス宣言をただの紙に終わらせることなく、      北海道の全経済団体とその意義を共有し、具体的      な取組策を明確にした上でですね、再度あの、大変も      ったいないと思うんですよ、ただ知事、記念撮影だ      けして、なんかあのやるっていうのは、あのやっぱり      その経済団体とその時機をしっかり捕まえてですね、      再度発信するということを指摘をして終わりたいと思      います。</p>	